

様式 7-1

平成18年度開始 交付金プロジェクト研究課題 事前評価結果

課題名：原木供給と最終用途を連携させるスギの一次加工システムの開発

主査氏名（所属）：藤原勝敏（研究管理官）

担当部署：加工技術研究領域、林業経営・政策研究領域

参画機関：奈良県森林技術センター

研究期間：平成18～20年度

1. 目的

製材品の需要を拡大するには、住宅生産者・消費者ニーズに合わせて高品質のスギ乾燥材の供給体制をさらに高度化・効率化することが求められている。また、地域におけるスギ蓄積量の増加とともに、原木も大径材供給が増えることが予測され、製材工場には生産品目の転換や多品目化が求められる状況にもあり、これらに対応する合理的な乾燥材生産・流通システムの構築が急務である。このため、市場における要求品質にあった製材品生産のシステム化、多品目生産に適合する乾燥システムの開発、消費者ニーズおよび生産から流通の乾燥材供給体制の評価等に基づいて、原木供給から製品の流通、市場ニーズを効率的に連携させる一次加工システムの開発を行う。

2. 終了時に得たい成果

スギ原木の大径化に対応するため、スギ中大径材の製品用途の要求品質と能率を考慮した多品目製材・多品目同時乾燥システムを開発する。乾燥材等製材品の市場ニーズの把握に基づいて、ニーズに対応した乾燥材供給システムの経済的評価手法を開発し、また乾燥材生産技術のガイドラインを提示することにより、乾燥材生産と供給の向上に資する。

3. 評価委員の氏名（所属）

西村勝美（（財）日本住宅・木材技術センター常務理事）

4. 評価結果の概要

国内林業・国産材の失地回復が重要な施策課題になっている今日、特にスギ材の効果的な一次加工システムの開発研究で木材加工技術と林業経営・政策研究領域とが連携して取り組むことの意義は極めて大きい。しかし、研究の細部計画では、成果の横断的な活用という視点がやや欠如している。したがって、研究遂行にあたっては、研究の全体計画と方法論を一部見直し、細部課題の成果が「システムを構築する要素」に取り込まれるようにする必要がある。

5. 評価において指摘された事項への対応

材料や製品の要求品質が反映される製材の製品計画を踏まえた低コスト・効率的な新製材システムを構築することとし、このため原木形質とその区分方法を確立することを計画に位置づけ、市場ニーズの把握等の細部課題との連携に留意しつつ研究を実施する。乾燥材供給システムの経済的評価手法の開発にあたっては、実用面での活用を考慮することとし、また一次加工システム評価への成果のフィードバックに努める。